

事業所における自己評価結果(公表)

令和3年3月29日

奈良県障害者総合支援センターわかさ愛育園(すみれ)

	チェック項目	はい	いいえ	現状(工夫している点等)	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	○		共有スペースは保育内容によりグループ感で時間配分し有効利用できるようにしている。	児童や保護者が不安な状況になった時に、静養する等個別対応できると部屋を確保できるよう検討していきます。
	② 職員の設置数は適切である。		○	保育時間保育内容を工夫しています。	法令基準は満たしていますが利用児童の人数や状況によっては手薄さを感じることがあり、職員間で協力体制を取っている。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等はバリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		各保育集団の保育内容、人数等を考慮して環境を構造化し、整備しています。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	○		老朽化はある。清潔に心掛け心地よく過ごせるよう努力している。	
	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務改善に関わる職員が定期的に参加しています。	
	⑥ 保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表や要望書等により、保護者の意向等を把握し、改善につなげています。	
	⑦ 事業所向け評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公表しています。	
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	利用者満足度調査結果について職員間で共有し改善する努力を行っています。	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修機会が減少したため、自主研修を行っています。¥	OJT研修などを充実させていきます。
ごし やと	⑩ アセスメントを適切に行い、子供と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		児童に関わる複数の職員の意見や評価等を参考に支援計画を作成しています。	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		施設内で統一したアセスメントツールを使用しています。	

⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインの内容に沿って必要な項目を適切に選択し、保護者の意向も取り入れながら支援内容を選択しています。	
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		児童一人一人の計画に沿った支援を行っています。	
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		こどもの姿を確認しながら担当者が情報を共有して立案して行っています。	
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		参加者・人数・場所・目的をその都度検討し、活動のプログラムを作成、工夫します。	
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		子どもの発達支援目標により個別と集団の活動を組み合わせています。	
⑰	支援開始前には職員間で必ず、打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前にはクラス、グループ単位で子どもの状況・活動の目標・支援内容・役割分担を確認しています。	児童・保護者に対して関わる職員同士が支援内容・役割分担等について共通理解をもてるように意識をもち、確認するために十分な時間を確保します。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		グループ、クラスで振り返りのミーティングをします。内容を共有するようにしています。	支援の振り返りや気づいたことを共有し、次回の支援や職員同士の協力に繋げられるよう、記録し、共有していきます。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援計画の検証・改善につなげている	○		毎日個人・グループの記録をしています。記録とミーティングで検証・改善につなげるようにしています。	日々記録をとり、支援計画に反映してしていきます。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		最低年2回 前期と後期で行っています。	
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している	○		これまでに招集され参加したことはありません。	招集されたときは、児童発達支援管理責任者または担任を参画させるよう配慮します。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		ケースに応じて連携を取っています。	必要に応じて行っています。
㉓	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)				

	地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
②4	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力機関等と連絡体制を整えている				
②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容の情報共有と相互理解を図っている。	○		移行先園等や保護者からの依頼や同意により、情報の共有等を行っています。	
②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)と相互理解を図っている。	○		移行先学校等や保護者からの依頼や同意により、情報の共有等を行っています。	
②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			必要に応じて連携を行っていきます。
②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		園としての機会はありません。保護者が希望された地域園等で行っています。 参加の仕方や園との連絡の取り方について助言しています。	交流を希望される保護者には、必要に応じてお住まいの地域での交流に関して個別に相談・援助いたします。
②9	(自立支援)協議会子ども部会の子育て会議等へ積極的に参加している		○	法人として参加しています。	
③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		常に保護者と子どもの様子をお話できる環境をつくるよう努力しています。	
③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		毎日の保育場面においてや保護者への伝達を通して家庭での生活や取り組みについてお伝えしています。また、保護者研修会では、訓練士や心理士による学習の機会を設定しています。	必要な方には、又、要望があれば対処していきます。
③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		丁寧な説明を行い、変更時にも説明する場を設けて行っています。	
③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者からの児童発達支援計画の同意を得てい	○		保護者への理解が得られるよう丁寧に説明し、同意を得ています。	

	る				
	③④ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的に懇談を行っている。また、日々連絡帳を利用して子どもの様子、生活を把握し、必要に応じて保護者と話をする時間を設けています。	保護者の悩みに気付いていけるよう配慮し、また適切な援助を行っています。
	③⑤ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者教室や休日参観を行い保護者同士の交流を図ったり、保護者会の活動に協力をしています。	
	③⑥ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れが合った場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や懇談の申し入れに対応できる体制をとっています。迅速に対応できるように配慮しています。	
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月園だよりを発信しています。変更や新規の予定が入ればその都度発信しています	
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意している	○		他機関との連携で必要な場合は、その都度保護者の同意を得ています。	
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のため配慮をしている	○		視覚情報を取り入れるなど、障害等に合わせた配慮を行っています。	
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	○	コロナ禍で直接参加は難しかったです。神社や地域のイベントに絵画等提出の参加をしました。	
非常児等の対応	④① 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		それぞれのマニュアルを策定職員や保護者に周知し訓練を行っています。感染症対策は適宜行っています。	訓練内容等を検討し、あらゆる緊急時に対応していける体制を模索していきます。
	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	○		原則月一回の防災避難訓練を実施しています。	
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		医療情報と看護師の指示に基づき、子ど	

				もの状況を確認し、対応しています。	
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示で食物アレルギー除去食を提供しています。	
④⑤	ヒアリング事例集を作成して事業所内で共有している	○		園内発生の事例は事例集を作成し、共有しています。	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修に参加し、園内伝達研修をしています。	研修を行い、個々の意識が向上するよう職員同士で定期的に確認をしていきます。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了承を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		今年度は必要ありませんでした。必要がある際は、事前の話し合い、確認説明をし、支援計画に掲載しています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。